

ＪＩＣＡ２０１７年度課題別研修

「中米統合機構加盟国向け 幹線道路沿線地域開発」コースを受け入れました。

平成２９年８月１７日から９月１６日にかけて、エルサルバドル、グアテマラ、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、ドミニカ共和国の６か国から、行政官等１１名が参加する研修を受け入れました。

中米地域では都市部と農村部を結ぶ幹線道路の整備とそれに伴う沿線の地域開発が重要なテーマとなっています。

本研修では日本における幹線道路沿線の地域開発において「道の駅」が担う役割を、座学やディスカッション、視察を通じて様々な観点から学習したほか、シーニックバイウェイの取組、公的機関による地域経済振興のための取組などもプログラムに盛り込まれ、北海道における地域開発の手法が幅広く紹介されました。

【北海道開発局長表敬訪問】



西山開発局次長と記念撮影

【研修の様子】



本研修は、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所の松田総括主任研究員をコースリーダーに迎え、道の駅と沿線地域開発に関わる数多くの知見を、熱意を持って研修員に伝えていただきました。

どの講義においても、研修員から多くの質問が出ており、日本の地域開発の成功事例を積極的に学ぼうという彼らの前向きな姿勢が伺えました。

写真提供：（研修受託機関）

一般社団法人 北海道開発技術センター



道の駅 ライスランドふかがわ の視察



ディスカッション



道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠において
笑顔で記念写真を撮影



研修を自国でどう活かすかを「アクション
プラン」として発表する研修員

【閉講式】



JICA 北海道研修業務課長から修了証書の授与



研修員を代表してコスタリカの研修員から挨拶

閉講式では、JICA 北海道 研修業務課長から各研修員に修了証書が授与され、北海道開発局からは国際室長が本研修協力機関としてご挨拶を申し上げました。研修員代表からは本研修関係者への感謝の意と、研修内容を今後の業務において活用していくことへの抱負が述べられました。中米の地域開発に本研修が活かされることが期待されます。